

日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査

(抄録)

高坂 祐樹

1999 年における調査地区7地区のクロマグロ合計水揚量は96トンであった。地区別に見ると、六ヶ所は 2.9トン(前年比 89%)、尻労は 11.0トン(同 56%)、大間は 47.9トン(うち 30kg 以上のものは 34.5トンで前年比 53%)、三厩は 6.2kg(同 5%)、深浦は 17.5トン(同 187%)、岩崎は 13.5トン(同 547%)、八戸は 4.2トン(同 68%)であった。

年齢別推定水揚尾数では、いずれの地区でも1才魚が最も多かった。日本海では5才以上のクロマグロは水揚げされなかった。一方、大間では10才以上が最も多い割合を占めた。

1999年の八戸地区におけるさめ類の水揚量はアブラツノザメが 611トン(前年比 141%)、ネズミザメが 15トン(同 191%)、ホシザメが9トン(同 150%)といずれも前年を上回った。漁法別にはアブラツノザメとホシザメが底曳、ネズミザメは大目流し網による漁獲割合が高かった。